

飼料用とうもろこし及び飼料用ソルガムにおけるツマジロクサヨトウ防除対策について

本年国内で初めて発生が確認されたツマジロクサヨトウについては、現在のところ、飼料用とうもろこしの生産ほ場を中心に、一部のスイートコーン（未成熟とうもろこし）及び飼料用ソルガムの生産ほ場において発生が確認されています。

飼料用とうもろこし及び飼料用ソルガムにおける本虫による被害を抑制するためには、早期発見と作物の生育状況に応じた防除対策が必要です。

このため、それぞれの生産ほ場の状況に応じ、次の防除対策を実施するようお願いいたします。

1. 早期発見

生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられることから、定期的に生産ほ場の見回りを行い、早期発見に努める。

2. 農薬散布

農薬散布が可能な生産ほ場では、農薬リスト（別紙）を参考に農薬による防除を実施する。散布にあたっては、新葉の葉鞘基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかりと散布する。

なお、周辺作物への農薬の飛散（ドリフト）には十分注意する。

（注）農薬の使用に当たり、不明なことがある場合には、病害虫防除所や普及指導センター等関係機関に相談ください。

3. 農薬による防除が困難な場合

草丈が高く農薬散布が困難な場合や隣接生産ほ場へのドリフトが懸念される場合は、次の取組を実施する。

（1）早期刈取り・刈取り後の速やかな耕耘

① 収穫が可能な場合は、直ちに収穫・調製を行う。

② 刈取り後は、土の上に落ちた幼虫及び土中の蛹を防除するため、速やかに耕耘する。

（2）すき込み

直ちに収穫が困難な場合は、被害の拡大や虫の分散等を防止するため、

① 速やかにすき込みを実施する。

② すき込みの実施にあたっては、幼虫及び蛹を破砕、又は土中深く埋没するとともに、土の表面に作物が見えなくなるまで深耕すき込み（深さの目安 12cm 以上）を 2 回以上行う。

4. 前作に発生が確認された生産ほ場等における防除

（1）本虫が土壌中に蛹の形態で残存している可能性があるため、刈取り後は速やかに複数回の耕耘を行い、残存害虫を駆除してから播種する。

（2）生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられることから、生産ほ場の定期的な見回りを行い、早期発見に努め、発生を確認したら直ちに農薬散布を行う。

（3）前作に発生が確認された生産ほ場の周辺生産ほ場においても、定期的に見回りを行い、早期発見、早期防除に努める。

(別紙)

【農薬リスト】飼料用とうもろこし及びソルガム(飼料用) (抜粋)

○飼料用とうもろこし

| 農薬の種類 | 使用方法 | 使用時期 | 散布液量 | 希釈倍数使用量 | 本剤の使用回数 |
|----------------------------|------|---------------|--------------|---------|---------|
| BT水和剤(14459) | 散布 | 発生初期 但し収穫前日まで | 100～300L/10a | 1000倍 | — |
| BT水和剤(19885, 20653, 21944) | 散布 | 発生初期但し、収穫前日まで | 100～300L/10a | 2000倍 | — |
| カルタップ水溶剤 | 散布 | 収穫21日前まで | 100～300L/10a | 1000倍 | 2回以内 |
| アセタミプリド水溶剤 | 散布 | 収穫90日前まで | 100～300L/10a | 6000倍 | 3回以内 |
| MEP乳剤 | 散布 | 収穫30日前まで | 100～300L/10a | 2000倍 | 2回以内 |

○ソルガム(飼料用)

| 農薬の種類 | 使用方法 | 使用時期 | 散布液量 | 希釈倍数使用量 | 本剤の使用回数 |
|------------|------|----------|--------------|---------|---------|
| アセタミプリド水溶剤 | 散布 | 収穫45日前まで | 100～300L/10a | 6000倍 | 3回以内 |
| アセフェート水和剤 | 散布 | 収穫30日前まで | 100～300L/10a | 1000倍 | 3回以内 |

(注)BT水和剤に記載している()内数字は登録番号。